

# 沖 新



## 同窓会長の挨拶

会 長 友廣 啓二 (13C)

この度総会におきまして令和6、7年度の同窓会長に選任されました工業化学科13回卒業の友廣でございます。

まずは、令和5年度のインターネット総会並びに11月18日に長崎市にて開催されました同窓会総会には多くの方にご参加いただきましてありがとうございました。また、長崎支部の皆様のご尽力により総会が盛大かつ無事に開催することができましたこと重ねて御礼申し上げます。

皆様ご存じのように、高専の役割は1962年の設立当時から日本の高度経済成長をけん引する現場の「モノ作り」技術者の育成と輩出が使命です。母校からも多くの優秀な技術者があらゆる産業分野に巣立ちそして活躍されています。近年、母校ではEDGE キャリヤセンターを活用した「コト作り」ができるグローバルエンジニアの育成、全国の高専に先駆けての半導体関連の人材の育成、また、水素社会の実現に向けた人材の育成などに力を入れていると聞いております。

このような中、我々同窓会はどのように活動すればよいのでしょうか。同窓会の会則には、「会員相互の厚誼を厚くすること」「母校の発展のために尽力すること」が目的として掲げられています。また、その目的遂行のための事業として「名簿の発行」、「会報の発行」、「工業教育の調査研究および援助」を行うとしています。

そこで、同窓会では具体的な活動として以下の3点を進めていきたいと考えております。

### ① 学校事業への協力

- ・専攻科生を対象とした特別講演会へのOBの派遣

### ② 学生支援の充実

- ・ロボコンを含む、体育・文化部の全国大会出場時の旅費支援（\*今年度より@2,000/人を@5,000/人へ増額）
- ・専攻科研究発表支援、国際交流支援

### ③ 同窓会員相互の連携

- ・会報の発行及びイベント管理システムの充実

いずれも、歴代会長の進められてこられた事業ですのでそれを発展させ継承させることが役目と考えております。重責ではございますが、母校同窓会の発展のため尽力いたす所存でございますので、役員・幹事を始め同窓会会員皆様のご指導ご協力をお願いします。

最後に、会員皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念しまして就任の挨拶とさせていただきます。

## 退職のご挨拶

第12代 佐世保工業高等専門学校校長 中島 寛



令和3年4月に東田 賢二校長のあとを受けて本校に着任し、3年の歳月が流れました。そして、令和6年3月末をもって退職いたしました。この3年間、同窓会の皆様から頂きました多大なご支援に深く感謝申し上げます。

ます。

在職した最初の1年間は、コロナ感染症の影響で、同窓会の総会も中止となり、皆様方と接する機会もありませんでした。そうした中、令和4年名古屋や令和5年長崎での総会で、同窓会の皆様と親しく接する機会を頂きましたこと、大変良い思い出となりました。また、本校の60周年記念事業では、多大なご支援を頂きましたこと、改めて感謝申し上げます。更に、令和4年から始め

た佐世保市のふるさと納税を活用した本校学生の支援事業でも、皆様方から多くのご支援を賜りましたことは、本当に有難く、本校同窓会の力強さを感じました。

10代半ばの少年時代から青年に至る、人生で最も多感な時代を共に過ごすという高専教育の独自性、そして皆様の強く温かいお気持ちに支えられた佐世保高専という「教育の場」の素晴らしさは、今後も末長く受け継がれて行くものと思います。

本校は令和5年度に大学・高専機能強化支援事業に採択されました。この採択を受け、令和7年度に現在の「電子制御工学科」を改組して「情報知能工学科」を新設します。情報処理、通信ネットワーク等の技術に加え情報システム全体のデザイン力や技術開発力も身につけた人材を育成します。また、現存する三学科においてもデジタル技術教育を強化します。

また、本校では、昨年度から全国の高専に先駆けて、「半導体人材育成」に取り組んでいます。この取り組みは、大変高く評価され、マスコミ等で広く紹介されています。「情報」や「半導体」などの先端技術の人材育成において、本校はフロントランナーに位置し、高専をリードする役割を担っております。同窓会会員の皆様には、こうした取り組みを理解し、より一層のご支援をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

## ご挨拶

第13代 佐世保工業高等専門学校校長 下田 貞幸



令和6年4月1日付で佐世保高専校長を拝命いたしました下田貞幸と申します。伝統ある佐世保高専に着任し身が引き締まる思いです。

私は熊本で生まれ育ち、民間企業を経て、熊本高専（八代キャンパス）で26年間教員を務めておりました。専門は建築設計・都市デザインで、学生や地域住民とともにまちづくりに関わったりPBL（Project Based Learning）教育に関する実践を行ったりといった活動をしておりました。その後、令和元年度から5年間、全国の51国立高専を統括している高専機構本部で高専教育の質保証や学

生支援等に関する実務的な指導・助言をする立場で業務を行ってまいりました。その間、政府・官公庁・企業・大学等からの高専に対する高い評価と期待を強く感じておりました。このような社会の期待に応え、技術力を持ってよりよい社会に変革していくための人財育成は、複雑化している現代社会においては学校だけでは難しくなっております。最先端の知識や技術を身につけ社会に貢献し社会を変革する人財を育成する高専教育は、高専だけで閉じるのではなく、OBの皆様を中心とした社会全体の様々な形のご支援が必要であり、協働することでより高いレベルの教育を学生達に提供できるのだと思います。OBの皆様には是非とも佐世保高専にお力添えをいただきたくご協力をお願いいたします。

佐世保高専としても不断の努力をしております。佐世保高専はいま、時代に即した人財育成を目指して、デジタル人材育成、半導体人材育成、アントレプレナーシップ教育、国際化など様々な取り組みを進めております。変化しようとしています。これらの成果が地元のために、日本のために、また国際社会のために役立つことを目指して、学生と教職員が一丸となって教育活動を進めているところです。先にも書きましたが、高専教育は学校で完結するものではありません。同窓会と学校が協働した人財育成を進めてまいりたいと考えておりますので、OBの皆様、引き続き佐世保高専を応援してください。どうぞよろしくようお願い申し上げます。

## 【令和5年度（2023）同窓会総会報告】

今年の総会はインターネット総会（11/1～11/10）と長崎市内での集合式総会（11/18）の併催という本来の形で開催されました。インターネット総会は72名の投票、集合式では89名の出席者でした。

結果は多数のご賛同を得て、1号議案「活動報告・決算報告」、2号議案（事業計画案・予算案）、3号議案（役員改選案）がいずれも承認されました。

詳しくは、同窓会ホームページ（<http://www.sasebo-ct.net/>）にて配信中です。